

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目 日本語・ベトナム語の自然会話における「引き継ぎ」に関する研究

申請者氏名 NGUYEN THI HA

本研究は、日本語およびベトナム語の自然会話における「引き継ぎ」現象を解明することを目的としている。引き継ぎとは、ある話者が開始した発話が他の話者によって継続されることで統語的に一文が形成される現象であり、その生起には話者交替場所に現れる「挿入要素」が密接に関与していると考えられる。本研究では、これらの挿入要素の特徴を詳細に分析し、その生起パターンが引き継ぎ現象にどのように影響を及ぼすかを明らかにした。

本研究では、日本語およびベトナム語の会話データを分析し、話者交替により統語的に一文が形成される「引き継ぎ現象」のメカニズムを解明することを目指した。その結果、引き継ぎの生起要因および特徴を多角的に考察し、以下の重要な知見を得た。

まず、話者交替時に現れる挿入要素は様々な生起パターンを形成し、基本的生起パターン及び典型的生起パターンを通じて、引き継ぎが起こりやすい統語位置を予測するためのサインとして機能していることが確認された。

さらに、これらの挿入要素は偶発的に現れるのではなく、特定の統語生起順序に基づいて現れることが判明した。特に、その生起順序は【 ... 感動詞類 ポーズ 感動詞類 (笑い) | (笑い) 感動詞類 ポーズ 感動詞類 ... 】という対称的な構造を示しており、この対称性が引き継ぎ現象を促進する要因であるという仮説を立てた(...: 何らかの発話; |: 話者交替)。この対称性は、日本語やベトナム語に特有な現象にとどまらず、他の言語にも普遍的なメカニズムとして存在する可能性が示唆される。

本研究の最も重要な成果は、引き継ぎ現象における対称性が単なる結果ではなく、むしろ話者交替がその対称的な構造を生み出すプロセスに深く関与している点である。すなわち、対称的な構造は話者交替が起こるからこそ形成され、この対称性が引き継ぎの生起に深く結びついていることが明確となった。また、話者交替における対称性は引き継ぎを促進する一因であり、異なる言語においてもその普遍的な特性が解明されたことが本研究の核心的な発見である。

加えて、対称性は単なる形式的特徴に留まらず、会話の進行や発話の協調に寄与する点で機能的意義を持つ。この発見は、引き継ぎが単なる会話現象ではなく、言語的・認知的なプロセスとして深く根ざしていることを示すものであり、異なる言語間における普遍的メカニズムを深化させるための一助となる。

最後に、本研究は TRP (順番移行可能な場所)の役割を再評価し、単なる交替のタイミングではなく、話者間の協働的な統語形成や対称的構造の生成に寄与する環境として位置づけた。これに基づき、話者交替は単なる発話の切り替えではなく、発話の継続性と対称性を維持しつつ協働的に構築されるプロセスであると再定義する必要性を提案する。本研究の成果は、会話分析および言語学における普遍的メカニズムの理解に貢献するものである。

学位論文審査の概要と結果

報告番号	東アジア博 甲 第 174 号	氏 名	NGUYEN THI HA
論文題目	日本語・ベトナム語の自然会話における「引き継ぎ」に関する研究		

(論文審査概要)

まず、学位論文の概要を以下に述べる。

本論文の目的は、日本語・ベトナム語の二者間自然会話を対象とし、共同的発話の一種である「引き継ぎ」現象の仕組みを解明することにある。引き継ぎ現象とは、話し手が途中で発話を止めた時点で、聞き手がそれを引き取って発話する現象であり、両者の発話を合わせると統語的に一文になるものである。本論文では、筆者自身が収集した大量の会話データを綿密に分析し、なぜ引き継ぎ現象が起こるのか、その際キーとなるものは何であるのかといった問題に対して、統語的・認知的な観点からアプローチしている。

本論文の構成は次の通りである。第 1 章は研究の目的、第 2 章は先行研究について述べている。第 2 章では、日本語だけでなく英語を対象とした共同的発話にも言及している。さらに、相対する割り込み現象に関する文献も参照し、引き継ぎ現象との違いも明確にしている。第 3 章では、ベトナム語文法の概要を記した後、調査方法、引き継ぎ現象の定義など本論文の立場を記述している。第 4 章では、日本語・ベトナム語の会話データを単文レベル・複文レベル及び主節・従属節に分類し、詳細な分析を行っている。第 5 章は、第 4 章での分析の結果得られた、生起パターンや生起順序など、引き継ぎ現象の仕組みについてまとめている。第 6 章では、問題点・今後の課題を挙げている。第 7 章では、本研究の意義のほか、日本語教育などの他分野への応用可能性について述べられている。付録として、収集した会話データをすべて文字化したものが電子ファイルの形で付けられている。

最終的な結論としては、(1)引き継ぎ現象が起こる際、話者交替場所に特定の感動詞類やポーズといった「挿入要素」が生起する、(2)挿入要素の生起順序は【感動詞類－ポーズ－感動詞類－笑い | 笑い－感動詞類－ポーズ】(記号 | は話者交替場所を表す)であり、対称的な構造となっている、(3)話者交替場所(順番の移行に適切な場所(TRP))は、話者間の協働的な統語形成や対称的構造の生成に寄与する環境である、(4) (1)～(3)は言語普遍的な性質である可能性が高い、といったものが得られている。

次に、本論文に関する審査結果を以下に述べる。

全体的には、あまり研究が進んでいない引き継ぎ現象を、日本語とベトナム語を比較することによって、多角的に、そして詳細に分析・記述し、言語普遍的な性質を導き出したことは高く評価できる。本論文の成果は会話分析研究やベトナム言語学に大きく貢献するものと判断する。

個別の評価項目については、以下の通りである。

1. 創造性

従来の説を十分に理解したうえで、新しい論点、仮説、証明方法が付加されており、その新規性について自覚的に表現できていて、当該研究テーマあるいは関連研究分野への貢献が明確である。特に、引き継ぎ現象を明確に定義し、統語的・機能的な観点から考察することによって、挿入要素の対称性という言語普遍的な仕組みを提示したことは非常に斬新であり、極めて優れている。

2. 論理性

適正な論証手続きに基づいて仮説を検証するなど、一貫性のある展開から結論が導かれている。大量の会話データを丁寧に分析し、仮説を構築していく流れは、全体として極めて優れていると評価できる。

3. 厳格性

先行研究は十分に渉猟咀嚼されており、質・量ともに十分な証明資料，そして厳格な方法が用いられている。ただ，近年の先行研究の参照については不十分なところが残る。全体としては優れていると評価できる。

4. 発展性

今回提示した仮説は，日本語やベトナム語の言語教育，第二言語習得など様々な関連領域に貢献できる可能性を持っている。すなわち，将来大きく発展する可能性のある論点や研究枠組み・視角・方法が萌芽的に提示されている。全体として極めて優れていると評価できる。

以上，審査委員会における審査委員の合議によって全体の評価が「極めて優れている」と判断し，論文審査結果を「合」とする。

論文審査結果

合・否

審査委員 主 査 (氏 名) 有元 光彦

(氏 名) 高橋 俊章

(氏 名) 松岡 勝彦

(氏 名) 山本 牙里

(氏 名) _____